

会派別議員名簿

Table with columns for Party (会派), Name (役職及び氏名), Age (年齢), Election (選挙回数), Votes (得票数), and various committees (常任委員会, 特別委員会, etc.). Rows include members from 創盛会, 盛友会, 市民連合, 共産党, and 絆の会.

注1: 年齢、役職等は平成26年4月1日現在
注2: ◎=代表質問: 持ち時間40分、○=一般質問(一括): 30分、△=一般質問(一問一答): 15分
注3: 委=委員長、副=副委員長

[豊村徹也の連絡先: 自宅]

〒020-0004 盛岡市山岸三丁目23-10 TEL・FAX 019-661-4124 携帯 090-5185-0308
E-mail: t-toyomura@ictnet.ne.jp http://www.livable-yamagishi.jp



※当レポートは政務活動費により作成しています。

豊村てつや市議会レポート

愛宕山のカラス「追払い」により減少

~GPS行動分析に基づくカラス対策進む~

盛岡市では愛宕山のネグラ解消に向けて、平成26年1月7日から15日までの間、「カラス逃避誘導音発生装置」を愛宕山に設置し、追払い実験を行いました。その結果、愛宕山に集まるカラスは見られなくなりましたが、中心市街地の電線等に、夕方から翌朝にかけて大量に飛来するようになり、市街地の道路において、ふん害等が発生しました。

ふん害等への対応については、市街地に集まる箇所が日によって異なることから、市職員が毎日巡視し、飛来状況の把握と電線に止まるカラスの追払いを行っていましたが、3月に入ってカラスの群は県庁前の内丸緑地に移動し、その後追払いを止めたこともあり、その場所に留まっているようです。



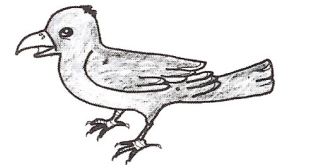
愛宕山に設置された拡声器

☆カラス逃避誘導音発生装置

愛宕山記念公園と岩谷稲荷神社の二カ所に拡声器を設置し、天敵であるトビの声に加え、カラスの警戒声、威嚇声、逃避声を順に再生することで、実際の逃避の状況を再現し、カラスの逃避行動を誘発させた。

カラスには、巣作りし子育てをするため、ツガイで暮らす時期(繁殖期)と集団で行動する時期(非繁殖期)があり、春先の営巣期から産卵・子育てを経て、幼鳥が巣立つ頃までは、市内の各地に分散して棲息しているようです。

その後、秋口に入ると、夜間の休息を行う「ネグラ」を求めて愛宕山に集結、大群となって春先まで一緒に行動します。



豊村てつやプロフィール



昭和29年4月25日 一関市生まれ
48年3月 盛岡一高卒業
54年3月 成蹊大学法学部卒業
54年4月 岩手県信連入会
平成15年3月 同上退職
15年5月 盛岡市議会議員
19年4月 同上再選
23年8月 同上三選

家族: 妻、長男、オカメインコ
血液型: O型
趣味: オカリナ・ケーナの演奏、音楽鑑賞、テニス

平成26年3月現在の主な役職と連絡先

- 山岸三丁目町内会会長 [総務部長 深倉尚充 662-2690]
山岸地区町内会連合会会長 [事務局長 松田善春 663-2766]
山岸地区福祉推進会会長 [山岸児童・老人福祉センター 625-3601]
加賀野交番連絡協議会理事 [加賀野交番 624-5396]
市消防団第6分団後援会会長 [第6分団屯番 622-3406]
岩谷稲荷神社責任役員 [神社事務所管理人 大町三郎 652-5443]
(社福)東部偕興会理事 [山岸保育園 623-6976]
(社福)小原慶福会理事 [養護老人ホーム清和荘 624-0533]
(社福)岩手県同胞援護会理事 [青山保育園 646-4605]
(NPO)WaiWai-ぐるんば理事 [地域活動支援センター 661-7018]
岩手県競馬組合議会副議長 [岩手県競馬組合 626-7711]

☆盛岡市のカラスのネグラの現状（2,000羽以上が飛来する大規模ネグラ）

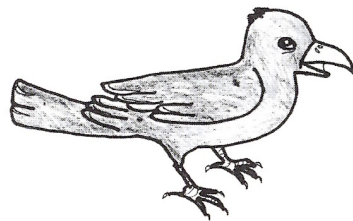
- ・愛宕山＝昭和50年代後半から、推定飛来数約5,000羽
- ・湯ノ館山（繫温泉）＝平成17年頃から、推定飛来数約2,500羽

愛宕山周辺にカラスが集団で棲みつくようになった昭和50年代後半以降、山岸地区は長年にわたりカラス被害に悩まされてきました。

これまでの主な対策としては、

- ・昭和61年～62年 **アドバルーン（直径2.6m×2個）による追い出し作戦実施**
⇒愛宕山からの追い出しに成功するも、八幡宮に移動。周辺から苦情が相次ぐ。
- ・平成元年～3年 **カッコウの鳴き声、交響曲「田園」放送、音波可変装置実験**
⇒顕著な効果なし
- ・平成4年～9年 **愛宕山にフラッシュランプとスピーカーを設置。スピーカーからは警戒声のテープを放送。**
⇒徐々に慣れが生じ、効果は低減
- ・平成11年 **愛宕山北側斜面9千㎡の杉を約7割（500本）間伐**
- ・平成13年～14年 **東北電力に対して、電線へカラス防止用パイプ（通称クルリンパ）の設置要請。**
⇒移動するだけで根本的な解決にはならない。
- ・平成15年～17年 **近隣町村連携打ち合わせ会議を行い、広域の調査を行う。**
- ・平成18年 **黄色いゴミ袋の実証実験**
⇒ゴミ集積所での被害割合が、透明袋の約1/3に低減。
- ・平成20年 **愛宕山東側斜面の一部を間伐（間伐率3割）**
⇒ネグラへの飛来数は変化せず。

平成23年度に、岩手大学と共同研究を開始し、盛岡市内ゴミ集積所の立地条件や、ゴミ収集管理の状況を分析し、カラス誘因となっている要素を究明し、今後のゴミ集積所におけるカラス対策の基礎データとして活用することとしました。



☆GPS（全地球測位システム）によるカラスの行動調査

市内で捕獲したカラス6羽の背中にGPSと無線を組み合わせた30gの送信機を装着し、市内2カ所に設置した受信局に、GPSで得たカラスの位置情報を無線で飛ばし、インターネットに接続したパソコンやiPadで把握する。GPSを使った鳥の追跡調査はこれまで、GPSを一定期間装着し回収後に確認する方法が主流で、今回の調査のように位置情報が瞬時に把握できるのは国内では初めて。

盛岡市は、GPS行動分析等に基づくカラス対策として、今後、以下の取り組みを行うこととしております。

対策1「ネグラ付近での追い払い」

視覚（フラッシュランプ・カラスの模型・目玉風船等）、聴覚（カラス鉄砲隊・ロケット花火・爆竹等）による脅かし。⇒慣れが生じる可能性があるため持続性に難点。

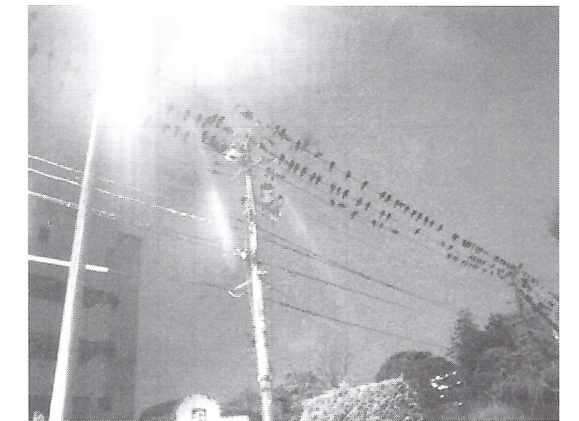
また、物理的な排除の方法として、ネグラ樹木への防鳥ネット設置・間伐の実施・付近の停留場所へのテグス設置等が考えられます。

⇒平成25年1月に、中央公民館前の電線にテグス線を装着した結果、電線下のフン被害が激減。

対策2「有害鳥獣としての捕獲」

農作物被害に係る有害鳥獣駆除（銃・箱わな）として、以下のとおり捕獲を行いました。

平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
1,610羽	1,741羽	1,718羽	1,726羽	1,928羽	1,944羽



愛宕山周辺の電線にとまるカラス

対策3「餌場対策」

カラスの個体数減少のためには、餌として利用できる食物量を減らし、カラスが生息できるための環境容量を減らす必要があります。特に冬季の餌場対策が重要で、カラスの追跡調査から、冬季のカラスはゴミ集積所の生ゴミにはあまり依存せず、郊外の農場（畜舎、リンゴ園等）が主要な餌場になっていることが分かっています。

農場での餌場対策としては、クズ果樹・クズ野菜等を放置せず、埋設・堆肥処理・廃棄物処理など農作物残渣の適正処理を行うとともに、防鳥ネットを設置して畜舎内への侵入を防止することが必要です。

また、ゴミ集積所での餌場対策として、盛岡市ではゴミ集積場所等整備事業補助金制度により「ゴミ集積場所における小屋またはフェンスの新設または増設に要する経費の1/2（上限額7万円）」の補助を行っています。

☆今後の調査研究課題

- ・行動追跡調査の継続⇒調査個体数を増やす。GISによる環境解析
- ・飛来数調査の改善⇒より正確な飛来数の把握
- ・被害実態の把握⇒農家やきれいなまち推進員へのアンケート調査

カラス問題は、いわゆる生態系の問題として、カラスが都市化に適応したのに対して、天敵であるオオタカやトンビなどの猛禽類や、卵を狙うとされるイタチやテンなどが減少しているために、カラスが増加したという分析もあります。

従って、単純な解決方法ではありませんが、今後は、カラスの天敵を呼び込むような環境づくりを進めることが重要であると思われます。

